巻頭論文

グローバル化時代における生産技術

トランスナショナル企業を目指した長期的な視点での企業の海外進出は避けて通れない道であり，“適地生産”というコンセプトに基づいた生産拠点の海外シフトは一層加速されるものと思われる。

製造を中心とする拠点の増加に伴い，より一層のグローバル化の進展とともに，経営的統括の多極構造化がますます進むものと考えられる。

このような状況認識の下に，当社生産技術センターは，革新的な生産技術の開発とコア技術のカスタマイゼーションの発進基地であることを自負し，さらにIE技術者のOJT的育成の拠点として，グローバル化の視点で，下記活動を展開し，国内外の生産拠点で実績を納めている。

(1) ドラスティックな生産設計，量産装置の開発及びライン導入

(2) 事業計画の策定段階から工場や倉庫の立ち上げまでの一貫した支援

(3) 微細異物低減を核とした半導体高歩留り化技術の開発と量産適用

海外生産拠点の増大と経営統括の多極化が進むなかで，企業のトランスナショナル化を推進するに当たっての重要な課題は，下記の２点であると考えている。

(1) 図面や制御プログラムなどの大量データのリアルタイム転送が可能な情報通信網の構築

(2) 工場の食料源ともいうべき資材の調達システムの構築，すなわち，情報通信ネットワークを活用した安くて早い調達物流システムの構築

小村 宏次　生産技術センター長